

# 昭和戦前期における第五七連隊と佐倉の町並み

Research Materials

安田常雄

## I

二〇〇二年から三年間にわたって行なわれてきた、個別共同研究「佐倉連隊と地域民衆」は、生活史を軸に「軍隊と地域」との関わりの実態を明らかにすることを、大きな課題の一つにしていた。それは私の理解によれば、軍隊とは召集・訓練・出征・戦闘・帰還（復員と死）のプロセスを不断に再生産するシステムであり、何よりもこの過程で露出する戦闘集団であることは間違いない。しかし、同時に軍隊は特有の生活集団としての側面も併せもっている。それはその集団自体が「人間」によって担われざるをえない集団だからであり、そこには「真空地帯」に象徴される「非人間的」側面を不可避免的に伴いながら、日常の生活が持続しているからである。

しかしこうした生活集団としての軍隊を主題化しようとすると、具体的事実がほとんどわかっていないという研究史的空白に直面することになる。近年、こうしたミクロの視点から兵士像を描き出す試みがようやく始まったのが現状である。一人ひとりの兵士は、毎日、朝起きてから

夜寝るまで、どのような生活をしていたのか、何を身に付け、何を食べ、どのような場所に暮らしていたのか、あるいは休日にはどこにでかけ、どんな過ごし方をしていたのか等々。これは内地で訓練している時だけでなく、「天皇の軍隊」として外地に出征してからも同様である。外地における皇軍兵士の残虐行為に関する関心は、政治イデオロギーの抗争ともからんで、重要な主題であることはいままでもないが、私にはかつて、ある批評家がのべた「人は理念によって残虐であることはできない」という言葉が、いまでもこの問題を考える根底に存在している。つまり生活史とは、単なる衣食住の素朴な事実だけではなく、そこに内在する同時代のポリティックスと密接につながっている領域だからである。

## II

もちろんこの大きな主題が、この共同研究だけで究明されるわけではないが、私はこうした問題関心を持ちながらこの共同研究に参加し、特に昭和戦前期の佐倉連隊と地域の人びととの具体的関わり的一端を考え

てきた。その意味で、この資料紹介は、何よりも事実の確定を心掛けて収集し、文書資料と三年間にわたる聞き書きにとつて構成された現段階での中間報告である。特にこの通称「町並みグループ」と自称しているメンバーのほとんどが、現在佐倉近在に住む市民の方々であり、この方々の熱心な調査・研究活動なくして、このような形にさえ、集約できなかったことはまちがいない。そしてここでは論じる余裕はないが、こうした「市民参加」の調査・研究とそれを基盤にした展示への架橋という課題は、特に現代史・現代展示にとつて大きな意味をもつものであり、今回はその一つの実験という意図をも併せもつことを記しておきたい。

今回、紹介する資料は、大きくは二つに大別できる。

まず第一は、軍隊にとつて地域はどのように見えていたかという観点である。これはすでに別項で詳細に明らかにされるはずであるが、何よりも徴兵関係事務の円滑化や銃後遺家族の援護などという戦争遂行上の至上命令に沿って、詳細にシステム化される。現在、残されている「兵事関係文書」などの公文書は、いわば職務としての戦争遂行事務処理への隠れた熱情とその無機質なルーティン化を表示しているといえるかも知れない。そのため前述したような、軍隊内の生活のディテールは、ほとんど姿を現してこない。たとえば、軍隊で消費した米や野菜や魚などは、どの地方のどの業者から、どのようなルートを通して納入されたか、あるいはその業者選定にあたって、どのような手続きやプロセスが介在したのか等々に関する資料を見ることは、極めて困難である。

ただそのような中で、ここで紹介する資料は、わずかながら佐倉連隊と佐倉の町との関わりが浮かび上がってくる資料である。それは具体的には、毎年の徴兵検査の時に多くの入営兵が、家族などの付き添いを伴って、この佐倉の町に集ってくることになるが、そのときどの地方出身の入営兵は、それぞれの宿舎に泊まるかを詳細に指示した記録である。ここから、それぞれの時点で、佐倉の町にはどのような宿舎がどのような規模で存在したかが明らかにされる。その宿舎は、資料をみればすぐわかるように、宿屋（旅館）に限らず、料理屋・飲食店などが「総動員」されていることがわかる。

この資料は、現在、千葉県文書館に所蔵されている旧千葉県山武郡源村文書のなかにある「兵事関係文書綴」であり、この簿冊資料にはほぼ毎年、佐倉連隊区司令部から発せられる「入営兵並附添人ニ対スル指定旅舎ノ件通牒」という文書があり、そのなかに「歩兵第五十七聯隊入営兵並附添人宿舎割表」という詳細な割当表が添付されている。

ここでは、昭和戦前期の変化を見るためもあり、以下の4点を収録した。

- 1 佐倉連隊区司令部「歩兵第五十七聯隊入営兵並附添人宿舎割表」、千葉県源村「昭和二年兵事関係文書綴」
- 2 佐倉連隊区司令部「内地部隊入営兵ニ對スル示達事項等送付ノ件」、同「歩兵第五十七聯隊入営兵宿舎割表（於佐倉町）」、千葉県源村「昭和十三年兵事関係文書綴」
- 3 千葉連隊区司令部「昭和十五年十二月入営兵ニ對スル示達事項等送付ノ件通牒」、同「昭和十五年十二月入営兵宿舎割及輸送計画表 千葉連隊区」、千葉県源村「昭和十五年兵事関係文書綴」
- 4 千葉連隊区司令部「昭和十七年一月東部第六十四部隊入営兵宿舎割表」、千葉県源村「昭和十六年兵事関係文書綴」

資料番号1の、一九二七（昭和二）年の「宿舎割表」はこの時期において、最も詳しい内容になっている典型例として収録する。ここでは、宿泊人員に付き添いの「官公吏」（村役場の職員など）や「附添人」（家族など）の人数までが記され、さらに旅館・宿舎毎に、どの地方からきたかが詳細に記録されている。これはそれ以後、簡略化され、日中戦争

勃発後の一九三八年では、出身町村は列記されるが、それぞれの人数はもはや記載されていない。この根拠はよくわからないが、日中戦争以後の戦争の全面化に伴い、徴兵事務の膨大化が反映されているのかも知れない。しかし、佐倉町内の旅館を中心とする宿泊場所は、記載が残されており、その推移をたどることは可能である。なお、続いて一九四〇年、四一年の「宿舎割表」を収録したのは、今回の共同研究においては、佐倉連隊と地域の関係を、一応、一九四〇年前後の時点で切って見たいという構想を立てていたからである。この時期は「紀元二千六百年祭」の時期で、同時に日米戦争はまだ始まっていないという意味で、戦前期のいわば集約的な姿を示すのではないかと仮説に基づいている。

第二の資料群は、地域にとって軍隊はどのように見えていたかという観点を表現している。ここでは、一九四〇年前後の時期を設定し、現在可能な限りで当時の佐倉の町並みを復元した。佐倉の町並みについては、すでに松井天山（画）「千葉県佐倉町鳥瞰」（昭和参年六月拾壹日写生）というすぐれた資料が知られているが、この資料は今風にいえば、同時代のイラストマップであり、地形、道幅などを自由にデフォルメしながら、一軒一軒の家、商店、役所、学校、寺などを詳細に書き込んだものである。今回の共同研究では、この資料や、前述の佐倉連隊区、千葉連隊区の公文書などを参照しながら、主には膨大な人びとの聞き書きをベースに、この復元作業を試みるようになった。

具体的には、第一に、佐倉第五七連隊（現国立歴史民俗博物館）の坂を下った左右一体の地域である田町地域（片町、両町）、及び海隣寺坂をのぼった海隣寺、並木町を対象に、地図で復元すること（担当、篠丸頼之氏、黒川和夫氏）。第二に、並木町に続く新町から、東は上町、二番町、仲町、西は練兵所（現佐倉中学）までの町並みを追い、さらに東にむかつては、宮小路から裏新町、肴町、そして間の町あたりまでを復元すること（担当、塚本良子氏）。そこを越えた本町方面や、現在のJ

R佐倉駅周辺には、手を広げない方針を立てた。ここに収録した二種類の地図は、その町並みを、現在の地番をベースに、当時において営まれていた多様な商店の種類とともに鮮明に表示されている。

それとともに「佐倉連隊と地域民衆」というテーマにとって重要なのは、こうした町並みに表示される人びとの暮らしが、いかに軍隊と関連していたかという点である。この点については、すでに「佐倉お茶の間風土記」という聞き書き集によって、多くのヒントが書かれているが、この本にも誤りが散見し、特に一九四〇年前後という時期的限定のなかで、どのように正確な実態を復元するかはおおきな課題であった。ここでは、一方でこの本を一つのベースにおきながら、可能な限り現存する市民の方々の聞き書き（これにも相互に矛盾する記憶が複合しているが）を活用し、こうした根拠が明示される限り、一軒一軒の商店などと佐倉連隊との関わりを記すことにした。そこからは、軍隊という員数的生活世界にとって、ボタン、襟章、靴下、下着などの小物を売る商店は不可欠なものであり、また印章や写真屋なども、この巨大な官僚制社会にとって重要であった。また料亭、菓子屋、土産物屋などが極めて多く、これは軍隊の日常生活を支えていた部分であり、同時にそこには、馬で通勤する上級将校と一般の兵士との画然たる区別が存在したことも事実である。さらには、連隊内の酒保などに収める、酒、そば、菓子やパンなどの食料品や野菜、帽子などの衣料品などの物資を通した、軍隊と地域との密接な関わり的一端が示されている。

さらに事実関係を明らかにしながら、軍隊と地域との関わりを探索する課題は継続するが、以上の二つの観点からの資料紹介によって、中間報告としたいと考えている。

資料Ⅰ-1 「歩兵第五十七聯隊入営兵並附添人宿舎割表」(佐倉連隊区司令部)  
『昭和二年兵事関係文書綴』(千葉県源村)

[illegible]







資料Ⅰ-2 「内地部隊入営兵二對スル示達事項等送付ノ件」(佐倉連隊区司令部)  
「歩兵第五十七聯隊入営兵宿舍割表(於佐倉町)」  
『昭和十三年兵事関係文書綴』(千葉県源村)

千徵第二四一號

内地部隊入營  
昭和十三年十一月廿八日

市町村長殿

昭和十一年十月十日内地部隊入營スギ現役兵ニ對スル示  
達事項宿舎割表及入營者旅客運賃割引證別紙ノ  
通り送付セシ付尤記ニ依リ至急示達及交付相成度通  
牒ス

凡記

一別紙示達事項ハ市町村長説明上之ヲ達ス  
ニ宿舍別紙ニ依リ示達ス

三入爲者旅客運貨引證各人一葉ヲ交付ス

四萬射虎第二聯隊入營兵ニ對テ現役兵證書ノ入營部隊  
所任地市中トナリ東郷師郡富勢村ト訂正セラル度ヲ傳達ス

千葉縣  
源村役場  
13.12 9.  
第512編  
受付

<p>正吳 對</p> <p>大正十一年十一月十一日</p>	<p>正吳 對</p> <p>大正十一年十一月十一日</p>	<p>四 對 應</p> <p>傳 發</p> <p>再 發</p> <p>通 達 函</p>	<p>三 解 決</p> <p>15</p>	<p>二 解 決</p> <p>10</p>	<p>一 解 決</p> <p>10</p>	<p>回 答 書</p>
--------------------------------	--------------------------------	---	------------------------	------------------------	------------------------	--------------

昭和十一年十月十日田部隊入營兵對示違事項

昭和十一年十月

千葉聯隊區司令官

一現役兵證書裏面心得壯丁及父兄心得第八現役服スヘキ  
壯丁心得ヲ熟讀シ萬事ニ遵焉キヲ期ス

二入營兵ハ歩伍ヲ除ク從六糧橋ハ糧ヲ食セト記入セル標識ヲ最

上衣ノ左胸部ニ附着スルヲス(部隊番号兵種ヲ記入ス(ヲラス))

歩伍ハ入營兵前記標識中「千葉」代リ「所屬郡」名ヲ

記入スルヲス 例ハ「印旛」山武、如シ

三入營前夜ノ宿舎ハ可成入營前日午後三時迄ニ指定旅館ニ

投宿スルヲス

四投宿後交付員等ヨリ宿舎ニ於テ入營其他ニ就テノ注意ハ遠

くトマルヲ可成在宿シタルレ但レ止ムヲ得ル事由ニ依リ外

出テテ場合ハ必ス其ノ行先ヲ明瞭ニ且フ留守中ノ諸注意ヲ

聴取シ得ル如ク確實ニテ手段ヲ講シ置クヲ要ス



[illegible][illegible]



今井好。

[illegible]

步五七二

考	備	市川市	船橋市	千葉市
放	病	區	分	遷行程地
銚子市	全員	表新町	花屋料理店	金主及座子
並木町				

一 本宿舎割中 (歩三七ノミ) 全主ノ宿中、宿泊所名ニミテ示シタルハ一  
 般民家ニ就宿スルニシテ駄及所ノ要所々々所名ヲ標示シ安事内新設  
 ヲ以テ該所ニ至リ左御駕入會員、案由依リ宿舎ニ就ケラス  
 二 宿泊料ハ山屋守吏町次入於十二月五才上、登金長ハ割ニ五才上

資料 I - 3 「昭和十五年十二月入営兵二對スル示達事項等送付ノ件通牒」(千葉連隊区司令部)  
「昭和十五年十二月入営兵宿舍割及輸送計画表 千葉連隊区」(千葉連隊区司令部)  
「昭和十五年兵事関係文書綴」(千葉県源村)

千葉連隊第二十四聯  
現役兵及應召兵ノ入営時ニ於テ見送入附隊人等  
取扱ノ間スル件ノ通牒  
昭和十五年十二月二十二日 千葉連隊區司令官田原田之助

市町村長殿  
現役兵及應召兵ノ入営時ニ於テ見送入附隊人等ノ取扱ノ間スル件ノ通牒  
當局ノ指示スル所ニ從ヒ關係各員熱意ニ依リ概テ所期ノ實績ヲ呈  
ケリアリシ時句下交通機關之通過ニ或ハ食料燃料等ノ需給ヲ考慮  
スルトキ更ニ段々之ヲ強化スルニ必要アルヲ認め且一面入営部隊ノ混雜ヲ  
除去スル爲現役兵召集兵ノ入隊時ニ於テ見送入承人居住ノ市街内  
村端又ハ最寄ノ乘車驛(停留所)迄ヲ限リトシ從來ノ如ク兵營又ハ集  
合地迄ノ見送入一切ヲ廢止スルコトニ定メラレ各部隊ニ於テ官公吏ノ  
外ハ入隊セシメサルコトニ決定シタルニ付今次現役兵ノ入営時ヨリ嚴ニ之ヲ實  
施スル等相成度通牒ス

爲觀望ノ精神ヲ熱意ヲ消滅セシメテ十分檢閲記名範圍内  
於テハ一々實極的ニ志氣ヲ鼓舞セシムル様特ニ配慮相成度口頭

千葉連隊區司令部  
15.11.25  
田原田之助



## 千原隊第三三聯

昭和十五年十二月入營ニ對スル承達事項等送付ノ件  
 昭和十五年十月二十二日 千葉縣隊區司令官目賀岡周之助

市町村長殿

来月十二月入營スル現役兵ニ對スル承達事項宿舎割表及輸送  
 計畫表別紙ニ通リ送付セシ付凡記ニ依リ至急承達相成度通牒ス  
 尚入營者ニ客運賃割引證ヲ同封セシ付申添フ

凡

記

○別紙示達事項ハ市町村長説明上之ヲ達ス

ニ宿舎割及輸送計畫別紙ニ依リ示達ス

三入營者旅客運賃割引證ハ各人一葉宛交付ス

注

意思

防謀上入營部隊集合日時場所等ヲ一表トシ配布スルハ  
 如キコトナキ様注意セラル度

昭和十五年十一月入營兵ニ對スル示達事項

昭和十五年十一月二十三日

千葉隊隊區

一 現役兵隊書面心得及壯丁及父兄心得第八現役ニ願入ル壯丁心得ヲ熟讀シ

當軍ニ道滿ナキヲ明スルモノトス

二 入營兵ハ先記標識ヲ最上衣服胸前部ニ附着スルモノトス

八 千葉

千葉部ニ千葉隊隊區ニ市町村氏名ヲ記入スルモノトス

三 入營兵ハ最寄附ヲ入營地迄ニ乘車券ヲ購入スルモノトス但し遠隔地ヨリ集合地ニ到ル

宿ハ有期期限ニ注意スルモノトス

四 入營兵ハ最寄附ハ可成前日午迄ニ時迄ニ將兵ニ報告スルモノトス時限ニ達

ナキハ報告ナシトス

五 入營兵ハ最寄附ハ可成前日午迄ニ時迄ニ將兵ニ報告スルモノトス時限ニ達

ナキハ報告ナシトス

六 指兵宿舎ハ能當リ受テタルモノハ限ニ他ニ宿舎ニ投宿スルヲ許サズ但し止ムを得

タル事由ハ宿舎長ニ報告スルモノハ限ニ他ニ投宿前日迄ニ書面ヲ以テ宿舎主

ニ報告スルモノトス

七 入營兵ハ最寄附ハ可成前日午迄ニ時迄ニ將兵ニ報告スルモノトス時限ニ達

ナキハ報告ナシトス

八 入營兵ハ最寄附ハ可成前日午迄ニ時迄ニ將兵ニ報告スルモノトス時限ニ達

ナキハ報告ナシトス

九 入營兵ハ最寄附ハ可成前日午迄ニ時迄ニ將兵ニ報告スルモノトス時限ニ達

ナキハ報告ナシトス

十 入營兵ハ最寄附ハ可成前日午迄ニ時迄ニ將兵ニ報告スルモノトス時限ニ達

ナキハ報告ナシトス

十一 入營兵ハ最寄附ハ可成前日午迄ニ時迄ニ將兵ニ報告スルモノトス時限ニ達

ナキハ報告ナシトス

十二 入營兵ハ最寄附ハ可成前日午迄ニ時迄ニ將兵ニ報告スルモノトス時限ニ達

ナキハ報告ナシトス

十三 入營兵ハ最寄附ハ可成前日午迄ニ時迄ニ將兵ニ報告スルモノトス時限ニ達

ナキハ報告ナシトス

十四 入營兵ハ最寄附ハ可成前日午迄ニ時迄ニ將兵ニ報告スルモノトス時限ニ達

ナキハ報告ナシトス

十五 入營兵ハ最寄附ハ可成前日午迄ニ時迄ニ將兵ニ報告スルモノトス時限ニ達

ナキハ報告ナシトス

十六 入營兵ハ最寄附ハ可成前日午迄ニ時迄ニ將兵ニ報告スルモノトス時限ニ達

ナキハ報告ナシトス

十七 入營兵ハ最寄附ハ可成前日午迄ニ時迄ニ將兵ニ報告スルモノトス時限ニ達

ナキハ報告ナシトス

十八 入營兵ハ最寄附ハ可成前日午迄ニ時迄ニ將兵ニ報告スルモノトス時限ニ達

ナキハ報告ナシトス

十九 入營兵ハ最寄附ハ可成前日午迄ニ時迄ニ將兵ニ報告スルモノトス時限ニ達

ナキハ報告ナシトス

二十 入營兵ハ最寄附ハ可成前日午迄ニ時迄ニ將兵ニ報告スルモノトス時限ニ達

ナキハ報告ナシトス

二十一 入營兵ハ最寄附ハ可成前日午迄ニ時迄ニ將兵ニ報告スルモノトス時限ニ達

ナキハ報告ナシトス

二十二 入營兵ハ最寄附ハ可成前日午迄ニ時迄ニ將兵ニ報告スルモノトス時限ニ達

ナキハ報告ナシトス

二十三 入營兵ハ最寄附ハ可成前日午迄ニ時迄ニ將兵ニ報告スルモノトス時限ニ達

ナキハ報告ナシトス

二十四 入營兵ハ最寄附ハ可成前日午迄ニ時迄ニ將兵ニ報告スルモノトス時限ニ達

ナキハ報告ナシトス

二十五 入營兵ハ最寄附ハ可成前日午迄ニ時迄ニ將兵ニ報告スルモノトス時限ニ達

[illegible]

[illegible]

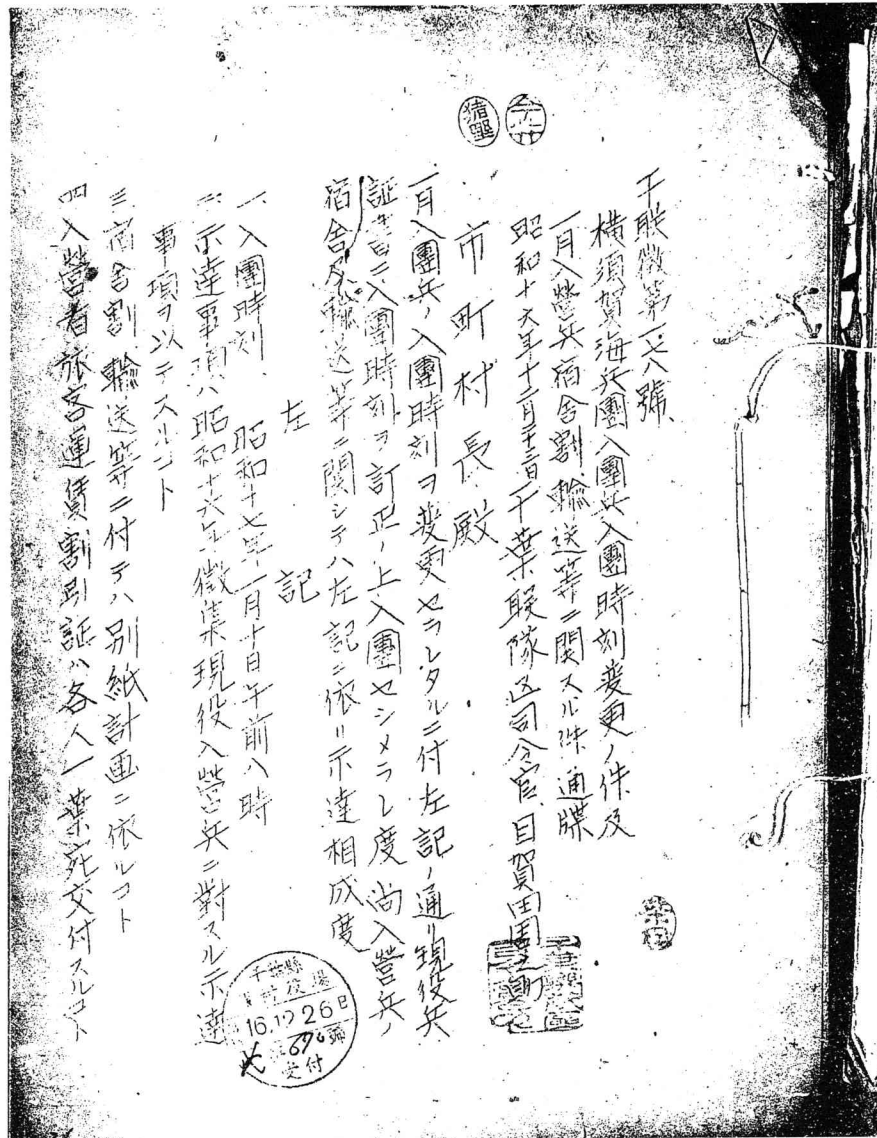
昭和十五年十二月一日入營兵宿舍割表 千葉縣陳區

入營部隊	区分	宿舍所在地	宿舍名	備考
東部第七	全員	東京市赤坂區 青山北町	大日本 青年館 青山二丁目	原宿第一團平機朝食五錢 食料三錢 此八全員主月五日 夜八青年館二宿四 コト 二青年館宿泊除、同日午五時迄申込、 コト 三、八身休於分、コト氏天恩検査ヲ付丁 全員ニ毎朝配スル二付
東部第十六	全員	東京市麹町區 麹町四、三、五	水元松屋	省線 谷塚
東部第十四	全員	東京市文京區 本郷二丁目	栄道館	市電 文京下
東部第七二	全員	東京市下谷區 上野驛前	宇仁館	省線 文京下
東部第一〇	全員	東京市南區 上野驛前	清光館	省線 上野
東部第九	全員	東京市南區 上野驛前	高田旅館	赤羽
東部第九四	全員	東京市南區 上野驛前	望遠館	青山二丁目
東部第一二	全員	東京市南區 上野驛前	上野公園	上野公園
東部第一八	全員	東京市南區 上野驛前	上野公園	上野公園
東部第一三	全員	東京市南區 上野驛前	上野公園	上野公園
東部第一四	全員	東京市南區 上野驛前	上野公園	上野公園



[illegible]

資料 I - 4 「昭和十七年一月東部第六十四部隊入営兵宿舍割表」(千葉連隊区司令部)  
 『昭和十六年兵事関係文書綴』(千葉県源村)



千葉縣隊区				千葉縣隊区			
宿	泊	区	分	旅館所在地	屋	業	主
東葛飾郡	松戸市	松戸市	松戸市	鎌倉市大所	村田屋	村田佐太郎	電話
安房郡	西河内郡	長尾村	雪ノ下	今よし	三輪は津	三輪は津	電話
市川船橋	市川市	市川市	二七三	松岡屋	松岡松之助	松岡松之助	電話
千葉市	千葉市	千葉市	二七三	長澤屋	長澤太郎	長澤太郎	電話
印旛郡	印旛郡	印旛郡	二七三	磯見	磯見清	磯見清	電話
鉾田郡	鉾田郡	鉾田郡	一〇八	川越屋	新井田せし	新井田せし	電話
市原郡	市原郡	市原郡	三〇八	橋本屋	小林一	小林一	電話
香取郡	香取郡	香取郡	八五	海月	長田正則	長田正則	電話
山武郡	山武郡	山武郡	長八	對馬屋	鈴木ワカ	鈴木ワカ	電話
海上郡	海上郡	海上郡	八五	海鳴館	高橋甚七	高橋甚七	電話
長根郡	長根郡	長根郡	八五	湘南庄	鈴木海	鈴木海	電話
右村	右村	右村	八五	錦倉園	長島	長島	電話

依頼事項  
 未入營現役兵ニシテ死亡兵籍編入入營不能者等  
 又ハ入營念入營日、兵種、部隊名、氏名ヲ樹報  
 相順度、依頼申上候（既ニ通報セラルタルモ含ム）  
 （葉書等ニテ可）



西郷郡	二〇七	喜入屋	岸	常吉	〇七〇
下草郡	五八三	大佛前	鈴木惣藏	九七〇	
八對又ニ對スル注意					

一 入園時 昭和十七年十月十日午後四時ヲ午前八時ニ改メラル  
 二 輸送 爲臨時電車ヲ運轉セラルニ付必ス之ヲ利用スルコト  
 三 宿舎 八幡倉市ナルニ付餅倉駅ニテ途中下車、上宿泊ヲ  
 ナシ入園當日餅倉發電車ニテ横須賀ニ到ルモノトス  
 途中下車、際誤ッテ横須賀迄、切符ヲ改札掛ニ渡サヌコト  
 乗車券、通用期間ニ注意シ途中下車後無効トナラサル様  
 注意スルコト  
 四 一日ニテ送ニ各人毎ニ宿泊ノ有無ヲ含主ニ宛通知スルコト  
 臨時電車 運行表  
 月 日 東京發 餅倉發 横須賀着  
 一月九日 午後二時三十分 三時三十分  
 一月十日 午前七時五十分 七時三十分

乗車部隊區分	發車時刻	到車時刻	備考
甲府聯隊區	午後二時三十分	午後五時三十分	交付、本車區分
千葉	午後二時三十分	午後五時三十分	
横須	午後二時三十分	午後五時三十分	
本郷	午後二時三十分	午後五時三十分	
麻布	午後二時三十分	午後五時三十分	
島	午後二時三十分	午後五時三十分	
廣	午後二時三十分	午後五時三十分	
京	午後二時三十分	午後五時三十分	
東	午後二時三十分	午後五時三十分	
5005	午後二時三十分	午後五時三十分	
1007	午後二時三十分	午後五時三十分	
5005	午後二時三十分	午後五時三十分	

注 一 數車二時間前迄東京發降車、前廣場ニ必ス集合スルコト  
 二 列車中、難當ハ心ス持参スルコト  
 三 貴重品ヲ紛失セ又様各人ハ貴重品袋ヲ準備使用  
 スルコト (從來輸送途中ニ於テ紛失セシ事例アリ)

[illegible]



[illegible]

廣島集合省宿舎割表					
入富郡陳 満洲五ヶ所。	廣島市大平町 三丁目	金明館 中二五	全員	全	分
満洲四六		田中屋 五二七二	全員	全	分
人イ	松原町	菟水	全員	全	分
方ワ	針屋町		全員	全	分
年ノ	飯沼屋町	東屋	全員	全	分
	狹果町	佐野半面八ヶ	東葛飾郡	東京府	分
才文		小川子日ノ	香取海上巨環東京葛飾郡・船子市	東京府	分
		椿山ギセ	千葉山武茂王市原・実高尾津	千葉県	分
		松浦タヤ吉	妻秀郡・二十紫市	千葉県	分

決り方ナシ  
号人(18才以上) 山登

入營		入營	
大前田	9.07	大前田	9.07
小前田	9.08	小前田	9.08
馬場	9.12	馬場	9.12
横田	9.22	横田	9.22
上野	9.32	上野	9.32
木更津	9.40	木更津	9.40
大更津	9.51	大更津	9.51
上総清川間ノ着ノ乗車		上総清川間ノ着ノ乗車	

入營		入營	
大前田	9.07	大前田	9.07
小前田	9.08	小前田	9.08
馬場	9.12	馬場	9.12
横田	9.22	横田	9.22
上野	9.32	上野	9.32
木更津	9.40	木更津	9.40
大更津	9.51	大更津	9.51
上総清川間ノ着ノ乗車		上総清川間ノ着ノ乗車	

入營		入營	
大前田	9.07	大前田	9.07
小前田	9.08	小前田	9.08
馬場	9.12	馬場	9.12
横田	9.22	横田	9.22
上野	9.32	上野	9.32
木更津	9.40	木更津	9.40
大更津	9.51	大更津	9.51
上総清川間ノ着ノ乗車		上総清川間ノ着ノ乗車	

入營		入營	
大前田	9.07	大前田	9.07
小前田	9.08	小前田	9.08
馬場	9.12	馬場	9.12
横田	9.22	横田	9.22
上野	9.32	上野	9.32
木更津	9.40	木更津	9.40
大更津	9.51	大更津	9.51
上総清川間ノ着ノ乗車		上総清川間ノ着ノ乗車	

入營、爲一月九日各驛ヨリ乗車スルモノハ元記ニ依テ度  
總武本線(銚子)——千葉間ノ着ノ乗車

入營壯丁輸送ニ関スル件——千葉鉄隊運用部



房總東線

大原——水納間ノ着ノ乗車

定時列車大原發九時十七分ノ列車トス

安房鴨川——浪花間ノ着ノ乗車

定時列車安房鴨川發十時二十五分ノ列車トス

水原線

種別	時刻
上り	7.01
下り	7.05
上り	7.24
下り	7.27
上り	7.45
下り	7.55

東金線

(東金——養田間ノ着ノ乗車)

定時發九時十五分及十一時十四分發ノ列車トス

千葉線

千葉發十一時四十三分及一時十四分ノ臨時列車ヲ增發ス

指定以外ノ各購票ノ乗車ハ此着及速隔ニシテ指定期間トス

陸軍

號外

ノモンハン事件關係死歿者調査相成度件

昭和十六年十二月二十五日

陸軍省人事局長 富永恭大

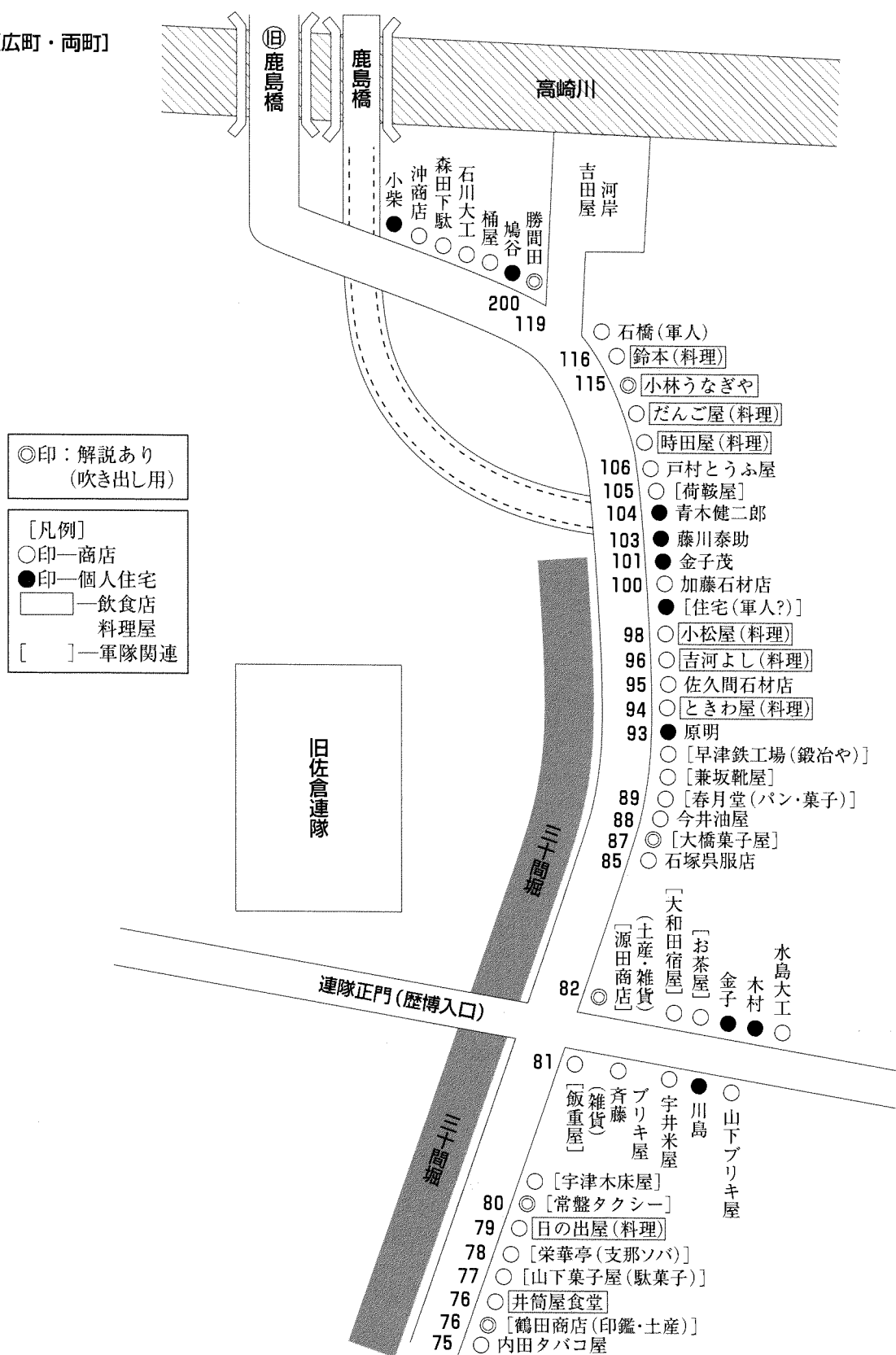
市區町村長殿

ノモンハン事件ニ參加シ戰死戰傷(病)死セシ者ノ御遺族(留守擔當者)ニシテ貴管内ニ居住セルモノヲ別紙ニ御記入ノ上成ルヘク速ニ陸軍省人事局補任課宛送付相成度  
追テ本調査ハ同封荻洲中將ノ挨拶狀ノ趣意ニ基キ額面贈呈ノ資料ト致スヘキニ付申添フ



決行ナシ  
冬人(日平之)

[広町・両町]

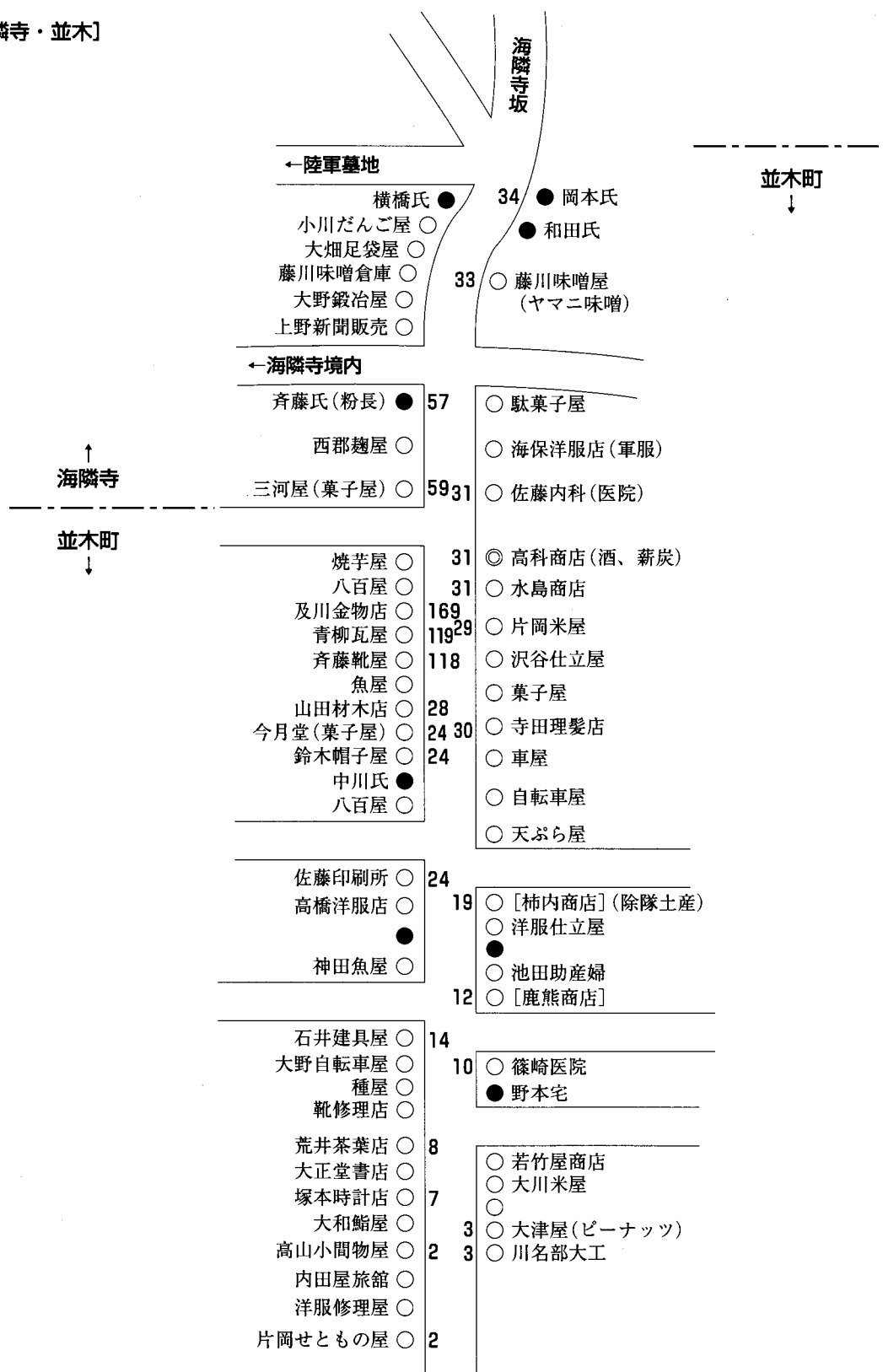


資料Ⅱ-1 佐倉(田町・海隣寺・並木)町並推定図(1940年頃)





[海隣寺・並木]



〔片町〕

○二九番地…勝間田金治氏

吉田屋河岸の船着場に揚る近郷の米、野菜等の積荷の管理をしていた。荷揚げされた物は連隊にも納入され、鹿島川の水運は重要な輸送手段であった。

○二五番地…小林うなぎ屋

昭和十五年前後、田町には飲食店が一五軒前後あったが、「うなぎ」専門店はこの店のみ。

印旛沼の天然うなぎを店先で焼いて、奥の座敷で客に供した。美味そうな匂いにさそわれて、休日は外出した兵隊さんで賑ったことであろう。

○八七番地…大橋餅菓子屋

当時佐倉には餅菓子、駄菓子、パン等を扱う菓子店が多く、兵隊の面会時の土産物などに使われた。この店は営門の正面近くであり大いに繁昌した。

○八二番地…源田商店

兵隊用の小物を売っていた。ボタン、襟章、靴下、下着等々。「軍隊は員数の世界」と言われ、ボタン一ツ紛失しても体罰が待っていて兵隊達は源田商店に駆け込んで、紛失した物を揃えて急場をしのいだ。

○八〇番地…常盤タクシー

将校、下士官の外出や、連隊から佐倉駅への送り迎え等、主に連隊を相手に商売をした。

当時、田町にタクシー会社は一軒のみで、仕事は朝から夜までフル稼働であった。

○七六番地…鶴田商店

軍隊に深く関わった典型的な店。

〔両町〕

○七一番地…巴屋菓子舗

外観や商品の陳列棚など昭和十五年当時そのまゝの形を残す片町（田町）で唯一の商店である。今でも営業している。

○六八番地…保智飲食店

本業は飲食店であったが同時に名刺印刷の看板もあげて、主として将校、下士官に納めていた。名刺も、印鑑も同様に軍隊組織の中で必需品であった。

○五七番地…鈴木商店

戦前から地元の酒、食料品の店として繁昌し、連隊に酒類を納めていた。

連隊内では酒保や、会合等で酒類の需要が多かった。

○五七番地…稲垣車屋

人力車数台で商売し、佐倉町内を中心に重要な交通手段として、人気があった。

タクシーが少なかった時代、兵隊さんも外出の折、利用したことであろう。

○四四番地…美登家

昭和十五年頃から終戦まで、田町には一五軒前後の料理屋・飲食店が営業していたが現在はこの店だけが当時の屋号で商売を続け

ており店構えも、昔の小料理屋の雰囲気を残している。

○三八番地…植松正義宅（タバコ屋）

昭和以前の建物。茅葺き屋根に、入口の腰唐戸（上半分ガラスの入った引戸）は昔の店舗の形を見事に残している。

引戸を開けると土間の先の板敷にはガラスケースにタバコを並べて売っていた。

タバコの他に除隊土産も扱っていた。

また、植松氏は母屋の裏に三部屋続きの家を建てて、下士官に自炊付きの下宿部屋を貸していた。

○三七番地…谷田部写真館

村松写真館と共に、地元の写真館として連隊と深くかわった。

連隊の行事、入隊、除隊時の記念写真、家族の面会写真等々、多くの記録を残した。

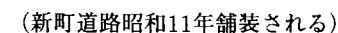
また、谷田部家では一時期、高級将校（少佐）がまかない付きで下宿し、朝夕、従卒が馬を引いて送り迎えをした。

○海隣寺三四番地…料亭花月

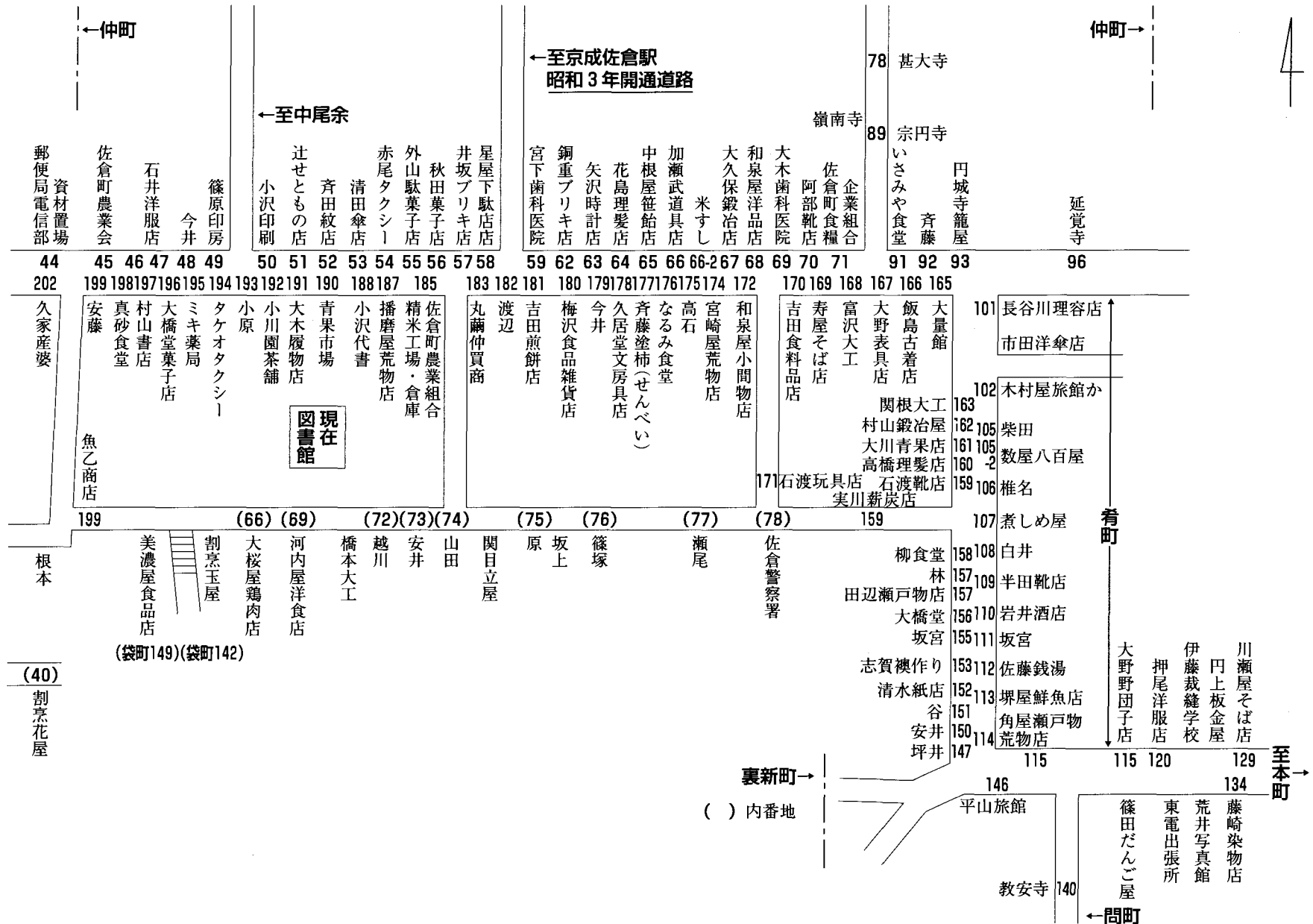
格式の高い料亭として繁昌。連隊幹部も度々利用した。宴席を取り持つ仲居さんも数人居たらしい。現在広い敷地は空地になり当時の建物は影も形もない。

○海隣寺三九番地…おっぺし屋

「おっぺす」とはこの地方の方言で「押す」という意味。当時海隣寺坂は田町から佐倉の市街地に入る唯一の道であり、たくさんの荷物を積んだ大八車や牛車は上り切るのに苦勞した。それを坂の下で待ちうけて車の尻を押した人が「おっぺし屋」である。終日車を押すことで商売になった。



資料Ⅱ-2 佐倉(新町・上町・二番町・宮小路・裏新町・肴町等)町並推定図



番 地	昭和15年頃	戦時中の様子など	提供者
横町東1	染草屋	文久元年の酒鑑札 明治34年まで酒造	チ
	酒、薪炭、食料品	配給制度まで米販売(その後 闇米も販売)	酒井
3	紅屋精肉店	明治29～32年憲兵隊屯所の記載	チ
4	八街合同 KK		
5	松井葬儀社		チ
6	田中菓子店	昭和10年田町山下菓子店より分店	チ
7	印旛食堂		
8	野口時計店	明治中期～昭和30年代まで	チ
9	国友倉庫	明治 山本写真館 大正 帝国貯蓄銀行	チ
上町北10	大和田ずし		
	矢沢自転車店		
11	毛塚呉服店	広いので将校が泊っていたと思う。	酒井
12	同洋品部	明治～昭和32年まで毛塚 現両総信金	
13	甘泉堂菓子店(酒井)	日曜下宿、東京の人が1人、部屋を貸すだけだった。福井部隊の時3人が泊っていた。食事・風呂の世話をした。休日には兵隊が店に来て餅菓子・大福などを食べて休んでいた。 木村屋(222)の下請けで天長節・紀元節などのお祝い菓子を作って連隊に納めていた。星型の紅白の落雁で(たぶん祝の印を押した)白い紙に包んで、大きな木箱に入れて納めた。子供だった酒井さんは、お菓子と一緒に荷馬車に乗って裏門から連隊に入った。これは大正終り～昭和始か。戦争末期にはお菓子の材料も手に入らなくなった。木村屋のかたパン・味噌パンは美味しかった。	酒井
14	回生堂吉崎医院		
15	高橋靴店	大正頃か 連隊で靴の修理をしていたと聞いた。	
16	下宿屋 大和田	元郷宿万屋 明治 吉田元治郎 大正頃軍人下宿、馬で送迎していた。 昭和43年～千葉銀行	吉田
17	第百銀行佐倉支店	明治 吉田伝左衛門 大正 立派なお庭で連隊長が泊っていた。 昭和12年～第百銀行(210より移転) 昭和18年～三菱銀行 昭和26年～千葉銀行 空襲の時など兵隊が屋上にいた。	吉田
18	商人宿市川	元郷宿釘屋 大正頃か離れに特務曹長夫婦が下宿していた。	吉田
		昭和頃は商人が泊っていた。	酒井
20	貸屋 吉田		
22	大久保ブリキ店		
23	藤代歯科医院		
27	新井ストック(既製服)	息子さんが戦死されたと聞いた。	酒井
28	池谷自転車店		
31	升倉屋酒店		
二番町北	水路		
32	鎌倉屋コンニャク店		
35	栗林足袋店		
至京成駅道路		昭和3年開通	
36	数屋八百屋		
36	勝又畳店		
38	中井せともの店		
39	更生堂パン店	昭和18年頃まではパンを焼いて売っていた。	高石
40	煙草専売局出張所	現41番まで市営駐車場となる。	

番 地	昭和15年頃	戦時中の様子など	提供者
41	郡役所入り口道路	元郷宿幸手屋 明治から奥に郡役所 平成11年まで印旛支庁入口道路 昭和20年空中戦をしていた飛行機から弾が飛んできて、1人死者が出た。連隊からトラックが来て乗せて行った。そばの木に昭和25年頃まで血痕が残っていた。役所の倉庫が全壊、役所の建物にも被害があった。各家に防空壕はあったが小さいもので、郵便局の壕に入れてもらったこともある。B29が酒々井の伊篠地区の山中に落ちた時、上空を旋廻しているのを皆で見ていた。	高石
42	菊水堂理容店(高石)	文政よりの店 将校が頭を刈りに来る事があった。昭和17、8年頃将校と家族が下宿をしていた。兵隊が馬で送り迎えをしていた。新町の店は昭和18年頃まではパン屋、菓子屋、食堂もやっていたが20年頃になると、人手も材料もなくなった。町で馬車はあまり見なかったが、牛車が米、野菜、下肥などを運んでいるのを見た。	高石
43	佐倉郵便局	明治7年～昭和31年まで局。昭和51年スーパーマーケットが出来、町並みが変わる。	チ
		明治～昭和46年電報電話局	
仲町北			
44	電信部資材置場		
45	佐倉町農業会事務所	大正12年頃まで小堀呉服店。昭和初年まで倉が残っていた。	チ・酒井
		小堀の土蔵に憲兵が下宿をしていた事がある。	吉田
46	石井洋服店	軍服・礼服仕立	チ・吉田・酒井
47	石井洋服店	現空地	
48	今井	～昭和初年まで駿河屋呉服店	チ
49	篠原印房	元郷宿油屋か 福井部隊の時兵隊が5人位割り当てられて泊っていた。朝夕の食事の世話も家でしていた。野菜など支給された。兵隊が練兵場で拾った鉄砲弾の中を鍛冶屋でくり抜いてもらい、木を埋め込んで判を彫って欲しいと何人も頼みにきた。記念にする為か。現在「木村」と彫った印が残っている。 「近衛第4連隊歩兵」「第一師団工兵除隊記念」と記されたものなど、陶器の美しい壺が数個ある。	篠原
中尾余入口道路			
50	小沢印刷		
51	辻	明治～昭和初年まで瀬戸物屋	チ
52	斉田紋店		
53	花島経師屋		
54	昭和タクシー	戦後、宮小路にあった木川写真館がここに移転	チ
54	外山駄菓子店		
55	秋田菓子店	戦後、牛乳店	チ
56	井坂屋ブリキ店		
57	星屋下駄店		
至京成駅通路	昭和3年開通		
59	宮下歯科医院		
62	銅重ブリキ店(北詰)	家は寺の屋根葺きの仕事をしていたが、戦中は連隊で仕事をしてた。私は学徒動員で木更津の海軍航空廠の寮にいた。 近所の家のほとんどに兵隊が泊っていたと思う。	北詰
63	矢沢時計店		
64	花島理髪店		
65	中根笹館店		

番 地	昭和15年頃	戦時中の様子など	提供者
66	加瀬足袋武道具店	お父さん足袋、息子さん武道具	酒井
66	米すし		
67	大久保鍛冶店		
68	和泉屋洋品店	明治～大正初期開花帝寄席	チ
69	大木歯科医院		
70	阿部靴店	この店の人が連隊の中で靴の修理をしていた。	吉田
71	佐倉町食糧企業組合	昭和15年頃より米の配給制度が始まりここで配給をした。	吉田
		新町の中では横町染草屋 仲町吉田 裏町片岡が組合に入っていた。	北詰
最上町入口		北の道沿いに74嶺南寺 78甚大寺 89宗円寺	
91	いさみや食堂	食事を軍隊や順天堂に納めていた。福井部隊の時は30人位の兵隊が泊っていた。父が軍用犬を飼育していて、満州にも行ったことがあると聞いた。昭和19年頃まで店をやっていた。(宿割15年)	藤代
92	齊藤		
93	円城寺籠屋		
	小川せんべい店		
93	長野		
96	とび職		
95	渡辺とび職		
96	延覚寺		
肴町東			
101	長谷川理容店		
101	市田洋傘店		
弥勒町への道路			
102	木材屋旅館	兵隊が泊っていた。(宿割2・13・15・17年)	北詰
105	柴田歯科医院		
105	数屋八百屋		
106	椎名		
107	煮しめ屋	豆や佃煮などを引き出しのついた箱に入れて売って歩いていた。美味しかった。(宿割2・13・15年)	吉田
108	白井		
109	半田靴店		
110	岩井酒店		
111	坂宮		
112	佐藤銭湯	戦時中は連隊から上官に引率された部隊がしばしば入浴に来た。	チ
112	堺屋鮮魚店	連隊納めの魚を荷馬車で運んでいた。	チ
113	高橋		
間の町北			
115	大野屋団子店		
120	押尾洋服店		
122	伊藤裁縫女学校	戦時中將校宿舎になった。家族持ちは一部屋に住んで縁側で煮炊きをしていた。色々な食べ物があった様でうらやましかった。兵隊宿舎にできなかった裁縫学校は廃校になった。夫は出征中、両親と1歳の子供と住んでいた。昭和20年7月翌日入営する学生さんと其家族が泊るところがなく困っていたので、泊めてあげた。大勢の人が入営の為佐倉に来ていた。20年頃は入営兵の宿割りはまだ無かったのか。(宿割13年)	伊藤雅通母



番 地	昭和15年頃	戦時中の様子など	提供者
	丹上板金屋		
129	川瀬屋そば店	(宿割13年)	
130			
間の町南			
131			
134	藤崎染物店		
	荒井写真館		
135	東電出張所		
137	篠田だんご屋		
138		現 教安寺参詣者用駐車場	
道路			
肴町南			
140	教安寺		
146	平山旅館	兵隊が泊っていたと思う。(宿割2・13・15年)	北詰
肴町西			
147	坪井	明治 上総屋旅館	チ
150	安川		
151	谷		
152	清水		
153	志賀襦作り	元飼葉屋郷宿。現岡谷医院	チ
154	坂宮		
156	野中		
157	田辺		
157	林		
158	柳屋食堂		
裏新町へ道路			
159	実川薪炭食料品店	配給制度前まで米も販売	チ
159	石渡靴店		
160	高橋理髪店		
161	大川青果店		
162	村山鍛冶屋		
163	関根大工		
仲町南			
165	大量館	休日になると外出した兵隊などで満員となった。 大正頃の静か。町の人からはその様な話は聞けなかった。	チ
166	飯島古物商		
167	大野表具店		
168	富沢大工	平成17年～新町歴史生活史料館	
169	桔梗屋そば店		
170	吉田	配給制度前まで米・油販売。その後食糧企業組合に勤務。	吉田・北詰
171	石渡玩具店		
裏町へ道路			
172	和泉屋小間物店	昭和21年ここに千葉銀行開店	

番 地	昭和15年頃	戦時中の様子など	提供者
173	同上		
174	宮崎		
175	高石		
176	なるみ食堂	(宿割15・17年)	
177	藤崎畳店		
178	久居堂文房具店		
179	今井		
180	梅沢食品雑貨店		
181	吉田煎餅店		
182	渡辺		
183	富田呉服店		
仲町南			
裏新町へ道路			
185	佐倉町農業組合	明治17年～45年佐倉警察署・大正3年～昭和12年佐倉町役場・昭和40年～47年消防署	
186	精米工場・倉庫	平成3年～現在おはやし館	
187	播磨屋荒物店		
188	小沢代書	昭和20年の東京大空襲により、東京から六千人以上が生命からがらこの町に逃げ込んだ。町の人口は一挙に六千人から一万二千人位に膨れあがり、裏座敷を借りたり、物置を改造したりして仮住居をしていた。当時寄留届を一手に引き受けていたのが小沢さんであった。	チ
189	青果市場消防機庫	明治 奈良屋寮 昭和31年～53年郵便局、現図書館	チ
191	大木履物店	映画館大量館主、大正期には連隊に出入りしていた。	チ
192	小川園茶舗		
193	小原	小西そば屋 嘉永～昭和初年まで	チ
194	タケオタクシー	大正8年頃まで魚市場、関東大震災の時付近の人の避難場所となった。	チ・吉田
		連隊に面会に行った家族もタクシーに乗った	吉田
		奥に将校が下宿していて、兵隊が出入りしていた。	高石
195	ミオ薬局		
196	大橋堂菓子店		
197	村山書店		
198	真砂食堂	奥に兵隊が泊っていた。	
199	安藤(内海屋)	兵隊何人も泊っていた。裏に将校が下宿していた。	吉田・酒井
		内海屋の店は大正期はそば、仕出し。戦後は食料品店。戦中は軍人だったので出征していた。裏の6畳2間に将校が下宿していて、馬で兵が送迎していた。(宿割2・13・15・17年)	安藤
199	魚乙商店(裏通)		
裏新町へ通路			
二番町南			
202	久家産婆	明治 戸長役場	
203	宮脇青果店		
203	旅館米新	元米屋郷宿 明治14、5年頃歩兵第二連隊長や将校の常宿。	チ
		福井部隊の時大勢泊まっていた。本部(?)があり、朝兵隊はそこに点呼に行ってから連隊に行っていた。(宿割2・13・15・17年)	酒井
204	桜木	元和泉屋郷宿 明治～昭和5年頃まで連隊へ文具を納めていた。	チ・桜木

番 地	昭和15年頃	戦時中の様子など	提供者
205	井口文房具店		
207	杉江呉服店	奈良屋が明治42年千葉に移転して後、杉江呉服店となる。	チ
209	印旛タバコ販売組合	207～211現美術館	
210	佐倉町役場	明治5年～川崎銀行・大正7年煉瓦造に。昭和2年～川崎第百銀行。昭和11年第百銀行。昭和12年銀行は新町17に移転、町役場となる。昭和12～46年町・市役場。現美術館	
211	川名部大工		
212	藤橋食料品店		
裏新町へ道路			
上町南			
214	山口文房具店		
215	佐倉キリスト教会		
216	照山		
217	富士食堂		
219	貸屋		
220	成東自動車 KK	佐倉成田間等バス運行	北詰
221	吉田	明治 吉田梅林堂筆墨商	チ
		横浜・甲府・八街の将校が泊っていて、家族が会いに来ていた。家で朝夕の食事の世話をした。甲府の軍医さんは押し花・魚拓などを送って呉れた。八街の人は休暇には家に帰った。やがて戦地に行った。福井部隊の時も3人位泊った。	吉田
222	木村屋パン店	明治15年連隊納めの為、銀座木村屋の2号店として佐倉に開店した。非常食のかたパン・味噌パン・卵パンなどをドイツ釜で父が焼いていた。かたパンは楕円型でゴマが入っていた。人が2人寝て入れる程大きな箱に入れ、裏門から連隊に納入した。酒保に入るには鑑札が必要だった。祝日や招魂祭のお菓子も作った。平凡社新書に『銀座アンパン物語』という本がある。 お店に落雁の木型があり、昭和23年と墨書、国旗クロスの画	木村
222	栗田履物店		
223	吉田		
224	及川大工		
225	河合楽器店		
226	同上住宅		
229	鍋店ストアー玩具店		
230	成田薬局		
231	大畑足袋店		
上町横通			
231	大畑足袋店		
232	金時食堂		
上町裏通			
230			
228	和泉屋小間物店		
227	和泉屋金物店		
横町北	麻賀多神社の並び		
233	松島床屋		
233	石井茶葉店		

番 地	昭和15年頃	戦時中の様子など	提供者
233	房州屋そば店		
横町西			
233	平井酒店		
234	藤橋写真館		
235	中村そば店	酒保に納めていた。	中村
236	国友金物銃砲店		
237	伊藤履物店		
238	中山歯科医院		
239	ほまれや食堂	連隊御用 金つばを納めていた	チ
240	吉田書店		
243	宮崎屋洋品店(高橋)	軍隊御用衣料商人(大正期か) 昭和期祖父が連隊に帽子を納めていた。父は勤め人で出征していた。	チ・高橋
裏新町南			
1	吉沢		
	川井八百屋	軍隊に野菜納め 大八車で毎日のように連隊に野菜を選んでいった。	チ・吉田・酒井
2	川村彦三	現塚本美術館	
道路			
25	藤崎雑貨店		
26	片岡燃料店	配給制度前まで米も販売	
	高山化粧品店		
57	根本美容院		
	伊賀		
53	青柳		
48	胡竹		
	福島屋卵店	現道路	
40	割烹花屋	料理旅館、将校が多く行った。(宿割2・13年)	吉田・酒井
(袋町147)	(美濃屋食品店)		
(袋町142)	(割烹玉家)	料理旅館、下士官が多く行った。	吉田・酒井
		(宿割2・13・15・17年)	
66	大桜屋鶏肉店	(宿割13・15・17年)	
69	河内屋洋食店	(宿割13・15・17年)	
	橋本大工		
72	越川		
73	安井酒店		
74	山田		
	関目立屋		
75	原	近衛連隊にて出征、昭和20年復員	原
	坂上		
76	篠塚		
76	大木		
77	瀬尾青果店	連隊納め、漬物野菜	チ
78	佐倉警察署	現佐倉市倉庫	

番 地	昭和15年頃	戦時中の様子など	提供者
宮小路南			
無	練兵場		
3		追手門跡空堀	
3	招魂社敷地予定地	天保7年～成徳書院、明治43年まで旧制佐倉中学、現市民体育館西半分	
12		明治14年～大正9年まで済生堂浜野病院	
26	キクヤ質店		
道路			
28	千葉憲兵分隊佐倉	明治32～昭和20年まで憲兵分隊分遣所	チ
32	分遣所	ここに馬2・3頭がいた。腕章をつけた憲兵さんが廻っていて怖かった。	酒井
30	加納最中屋		
30	細谷精肉店		
30	牛玖氷問屋		
30	鈴木青果店		
30	ヨロズヤ靴店		
30	加納屋旅館	国鉄佐倉駅への新道は昭和17年着工、翌年開通した。	チ
		道路完成は戦後、加納屋は道路東へ移転した。	岩淵
		昭和19年国土地理院空写真ではこの道は完成していない。昭和23年米軍の空写では開通している。戦時中に着工中断し、戦後昭和23年頃に完成したと思われる。	塚本
30	木川写真館	道路工事のため店移転。	チ
	うるし坂	戦争末期、兵営の裏門から夜中にうるし坂を通して兵隊が出征して行った。家族が暗い中をうろうろして探していた。靴音がいつも耳に残っている	宮小路・図司
		福井部隊の後、秘密の空気になり、出征の見送りはなくなった。英霊迎には国鉄の駅に度々行った。白布で包まれた箱に入れられた英霊は兵に抱かれ、白布を巻いた銃を下向きに持った兵とともに、うるし坂を通して兵営の正門に向かって行進して行った。	吉田・酒井
		戦車もうるし坂の道を通った。	岩淵
宮路北			
無	練兵場	明治8年～昭和5年まで連隊司令部。現市立佐倉中学西	チ
		子供の頃大正期は、練兵場や病院の傍まで入れたが、だんだん近寄れなくなった。練兵場に焼夷弾が落ちた事があり怖かった。	酒井
6	菅谷		
13	浜野	大正9年まで浜野病院長宅	
17	伊藤		
19	横田染物店		
20	古井日用品店		
<p>① 提供者欄の、チは『佐倉お茶の間風土記』。それ以外の人名は③の聞き取り協力者を指す。</p> <p>② (宿割2・13・15・17年)は、前掲資料、佐倉連隊区司令部「歩兵第五十七聯隊入営兵並附添人宿舎割表」の昭和2年、13年、15年、17年の記載を示す。以下同じ。</p> <p>③ 聞き取りにご協力下さった方々 敬称略(数字は地番)</p> <p>新町 13 酒井八重子      42 高石惣一郎      49 篠原印房      62 北詰栄男      96 藤代志津江      122 伊藤雅通  161 大川煙草店      170 吉田文具店      199 安藤(内海屋)      204 桜木喫茶      221 吉田嘉子      222 木村屋  235 中村そば店      243 高橋 宮小路 脇谷智慧 図司 岩淵茂子</p> <p style="text-align: right;">塚本良子作成</p>			